

歌舞名物同異鈔 版本 一帙三冊

三Gal

○正徳五年刊。丁子色紗綾形地牡丹唐草文様空押し紙表紙。五針袋綴装。綴じ糸は後綴。縦二七・五糎×横一八・六糎。単匡郭、縦二〇・二糎×横一五・一糎。上冊二二丁、中冊二二丁、下冊一三三丁、遊紙なし。料紙、楮紙。片面一〇行。

○外題、原題簽、左肩に子持ち郭刷題簽「歌舞名物同異鈔 上(中・下)」。内題、「歌舞名物同異抄上(中・下)」。尾題、上冊「歌舞名物同異抄上終」、中冊「歌舞名物同異抄中終」、下冊「歌舞名物同異抄下」。版心、「歌舞名物同異鈔上(中・下)」、下部に丁付け。

○上冊第二丁に、竹田権兵衛秦廣貞自ら例言を記す。跋、「正徳四年八月中旬肇志於参考矣／十一月甲子輯録訖焉秦廣貞」。刊記、「正徳五年正月五日京師書肆谷口七左衛門」。

○印記、各冊第一丁裏右上に、正方陰刻朱印「□本之印」。各冊題簽に正方陽刻朱印あるも剥落して定かならず。竹田権兵衛秦廣貞編。中巻下巻の第一丁は、各々史記、論語、孟子の書付け、版下の写本となった本の見返しへの書入を踏襲したものと思われる。板心に刷られた丁数は、第一丁が含まれていない。参考文献、『鴻山文庫藏能楽資料解題』下。



観楽筆談 写本 一冊

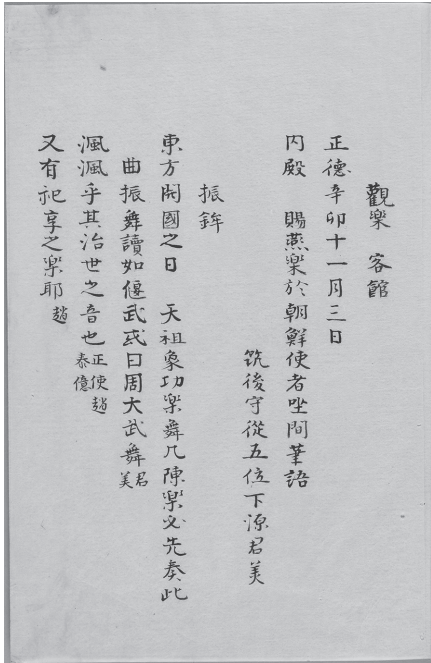
三Ma4

○江戸中期写。薄縹色紙表紙。五針袋綴装。縦二六・二糎×横一八・三糎。本文二二丁、遊紙なし。料紙、楮紙。

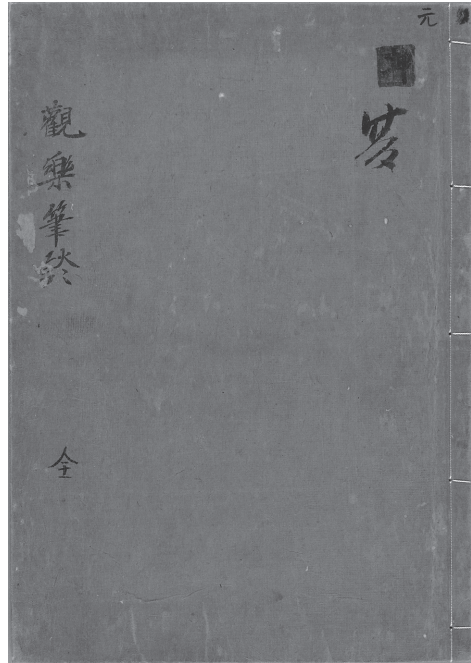
○外題、打付書、墨書、左肩「観楽筆談 全」。内題、「観楽 客館」。尾題、なし。

○内題に続けて「正徳辛卯十一月三日／内殿 賜燕楽於朝鮮使者坐間筆語／筑後守従五位下源君美」。第七丁表に「通信正使趙泰億 輯  
／辛卯十一月五日在江戸時白石源璵君美來訪館所叙寒暄訖」。跋、なし。

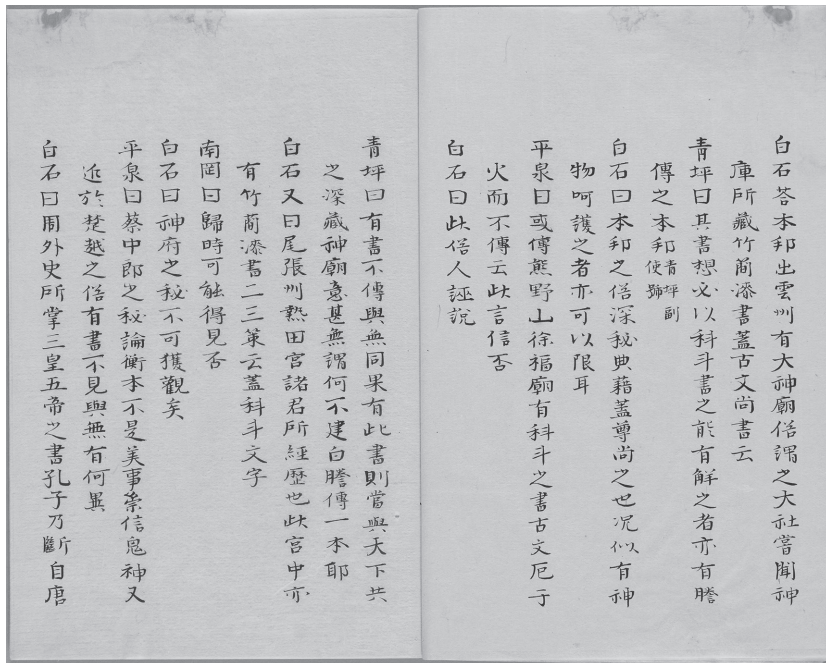
○印記、なし。新井白石と朝鮮通信使との筆談録。雅楽のことなどについて。



卷頭



表紙



本文



平家曲節 写本 七帙四三冊

IX 5C 8

○天保三年頃写。藁屑散らし紙表紙。但、第二・四冊は本文共紙楮紙表紙。四針袋綴装。但、第二・四冊は仮綴。第一〜六帙の第一〜三七冊および第七帙の「拾式目未」は縦二一・一糎×横一三・五糎。第七帙の「訪月」は二三・六糎×一七・三糎。「平家曲節 上」は二二・五糎×一六・五糎。「平家曲節」(小秘事)は二一・六糎×一五・二糎。「平家曲節 下」は二二・三糎×一六・五糎。「灌頂卷」は二四・二糎×一六・四糎。丁数については、外題と共に整理して示す。第一冊「平家正節 全」二九丁。第二冊「平家正節」一四丁。第三冊「平家正節目次」一八丁、途中遊紙二丁、後遊紙二丁。第四冊「平家正節目次」一九丁。第五冊「平家曲節 壹」七五丁。第六冊「平家曲節 貳」八〇丁。第七冊「平家曲節 三」八三丁(以上第一帙)。第八冊「平家曲節 四」七五丁。第九冊「平家曲節 五」六六丁。第一〇冊「平家曲節 六」六五丁。第一一冊「平家曲節 七」(題簽剥離)九四丁。第一二冊「平家曲節 八」八五丁(以上第二帙)。第一三冊「平家曲節 九」九六丁。第一四冊「平家曲節 十」(題簽剥離)一〇二丁。第一五冊「平家曲節 十一」一〇〇丁。第一六冊「平家曲節 十二」一〇〇丁。第一七冊「平家曲節 十三」八八丁。第一八冊「平家曲節 十四」一〇〇丁(以上第三帙)。第一九冊「平家曲節 十五」九七丁。第二〇冊「平家曲節 十六」八一丁。第二一冊「平家曲節 十七」八一丁。第二二冊「平家曲節 十八」八四丁(三丁目半分破れ)。第二三冊「平家曲節 十九」九六丁。第二四冊「平家曲節 二十」九六丁(以上第四帙)。第二五冊「平家曲節 二十一」(題簽剥離)七六丁。第二六冊「平家曲節 二十二」一〇八丁。第二七冊「平家曲節 二十三」七六丁。第二八冊「平家曲節 二十四」四九丁。第二九冊「平家曲節 二十五」五六丁。第三〇冊「平家曲節 二十六」六九丁(以上第五帙)。第三一冊「平家曲節 二十七」八一丁。第三二冊「平家曲節 二十八」七七丁。第三三冊「平家曲節 二十九」六五丁。第三四冊「平家曲節 三十」八九丁。第三五冊「平家曲節 三十一」(題簽剥離)六九丁。挟み紙一紙(「羸」などの字の音訓書付)。第三六冊「平家曲節 三十二」六一丁。第三七冊「平家曲節 三十三」六五丁(以上第六帙)。第三八冊「平家物語 拾式目/未」三三丁。第三九冊「平家曲節 上」七九丁。第四〇冊「平家曲節 下」六七丁。第四一冊「平家曲節 四六丁、第一八・二五丁目は遊紙。第四二冊「灌頂卷」一三二丁。第四三冊「八坂流 訪月 全」一二丁(以上第七帙)。料紙、楮紙。

○外題、白地雲母引原題簽、左肩、外題の詳細については右の通り。但、第二・四冊は仮綴装で、第二冊は中央に、第四冊は左肩に、墨による打ち付け書。卷七・七・二十一・三十一の題簽は剥落、うち卷十・三十一の剥がれた題簽は冊に挟まれて現存。内題、第一冊「平家正節」(扉題)。第二冊なし。第三・四冊「平家正節目次」。第五〜四〇冊なし。第四一冊「小秘事」。第四二冊にはなし。第四三冊「訪月」。尾題、なし。

○序、①「安永龍集丙申春／張藩裨官君山松卒秀雲八十歳操筆於吏隱亭」。②「安永丙申夏六月／丹羽敬仲」。跋、「安永丙申秋日／千郵諸成撰」。但、第一冊の二つの序に続けて跋として収められている。奥書、「于時天保三壬辰年六月應清川勾當坊需写焉令傳受畢／星梁齋(正方陰刻朱印、正方陽刻朱印)」。

○印記、なし。荻野檢校知一著。

平家正節序

聖人石曰積善之家有餘慶積不善之家少餘殃昔哉言漢也漢唐以來茂君虐民流毒海內者其身伏斧鉞子孫無孑遺我國中古有平相國者越乎寒微位極人臣乘勢窮奢擅威福

序

平家正節 全

表紙

干時天保三壬辰年六月  
 應清川勾當坊需寫  
 令傳受年  
 星 梁齋

裏書

平家正節序  
 聖人石曰積善之家有餘慶積不善之家少餘殃昔哉言漢也漢唐以來茂君虐民流毒海內者其身伏斧鉞子孫無孑遺我國中古有平相國者越乎寒微位極人臣乘勢窮奢擅威福

本文